

# 特別インタビュー



## 皆さまに笑顔と豊かさをお届けする “グッドスマイルメディア”を目指して



「つくる」「つなぐ」「かなえる」 お客様や地域とともに成長しあえる、印刷を超えた「もう一步」先のメディアへ

### 持続的に成長する100年企業を目指して

2020年5月、当社は創業70周年を迎えました。私は4代目にあたり、就任の際に企業理念とスローガンを刷新。企業理念「メディアコミュニケーションを通じて、お客様・地域社会・従業員に笑顔と豊かさを創造する」にあるように、当社の発展は、お客様の発展、ひいては地域社会の発展とともにあります。

そのうえで不可欠なのが持続可能な社会への貢献であり、当社ではSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、2020年度より、4つの重点項目（多様化するニーズへの価値提供/企業基盤の強化/いきいきとした職場風土の実現/地域との協働）を設定し、「サステナビリティ方針」を策定しました。

### 脈々と続く理念「共創、地域への貢献」

当社の創業は1950年、地元の映画館と飲食店を盛り上げるための広告業がスタートでした。「地域のために役立ち、奉仕しなさい」というのは創業社長がよく言っていた言葉です。埼玉を見直し、地域のために自分たちに何ができるかを考え、「地域貢献、共創」をテーマに『絆アベニュー（未来を担う子供に埼玉の魅力を伝え、親子の健全な関係づくりのための支援プロジェクト）を始めとした各種取組を行ってきました。

### 環境面での先行的取組から環境SDGsへ

印刷事業としては、FSC®認証紙利用や、環境保護印刷として「クリオネマークゴールドプラス（最高ランク）認証取得など、環境を意識した事業活動を行っています。



代表取締役社長  
望月 諭 氏

つくる、つなぐ、かなえる  
Good Smile Media



（自社HPでSDGsを宣言）



責任ある森林管理  
のマーク

2014年、現像レスCTPの導入により、現像液、現像液の廃液、洗浄水レス化ができました。2017年からは無処理版CTPも採用しています。

業界でもかなり早い段階で設備や資材を導入してきました。無処理版CTPは未だ2割程度の企業しか導入していません。

SDGsへの取組が動き出した時、これまでの事業活動で「すでに行ってきたこと」が環境面でのSDGsにつながっていたのでスムーズに移行できたかと思えます。

### はじめの一步

2018年頃からSDGsという言葉が耳に入るようになり、調べていくうちに、持続可能な社会の形成にこれは必要な、この取組を当社の社業に当てはめていければ、さらに現在の活動を進化させていけるのでは、と思いました。

そこで部門横断的に課長職が集まる会議体を母体に、「SDGs推進委員会」を立ち上げました。自社内で試行錯誤しながら最初に行ったことは、SWOT分析のアレンジで会社を分析・見直したことです。

さらにSDGsコンパスを参考に、会社の課題、あるべき姿に対して、今出来ていること、今後やるべきことを洗い出して4つの重点項目を作りました。また、会社の中期経営計画と合わせ、各部門での事業と絡めて目標を作りました。

### 今後の展開

社内で浸透させることが課題です。どのように日常の仕事の中に落とし込むか、自分たちの仕事はどう地域・日本・世界にかかわるか、ストーリーを見せていく必要があります。

時間をかけても、それに気づく社員が増えていくことで会社が強くなると考えています。



（当社SDGs広報紙「NEXT」）

### SDGs全社教育

\*\*\*\*\*  
10月1日より本格始動した望月印刷のSDGs。全従業員への理解と浸透のために、全社教育を計画。12月9日（水）と11日（金）に第1回目を開催しました。SDGsのゴールと当社のゴールがどういった関係にあるかを学習し、自社分析をするホームワークを全従業員に実施。その結果を第2回目で解説していきます。2回目は3月下旬予定。



（SDGs全社教育の様子）

### 【他社へのアドバイス】

SDGsのメリットは「今できていること、何をこれからやるべきか」という視点で会社を見直せることだと思います。

当社は以前から環境配慮の印刷に取り組んできましたが、自分たちがやってきたことを見直すことで取組のきっかけがつかめるのではないかと思います。